

## 令和4年度栃木県公立小中学校教頭会研究計画

### 1 全国統一研究主題

#### 第12期「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」(R2~4)

### 2 全国公立学校教頭会第12期の研究について(全国公立学校教頭会令和3年度「研究の手引き」より)

#### (1) 研究の基本目標

- 教育理念に基づく学校教育の実現
- 副校長・教頭としての力量の向上
- 学校の社会的役割の推進

#### (2) 研究の基本方針

- ① 学校教育の課題の解決に努める
- ② 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追究する
- ③ 研究成果を政策提言活動(要請活動)に生かす

#### (3) 第12期全国統一研究主題について

第12期の研究主題に設定した「未来を生きる力」とは、子供たちが時代の進展・変化に的確に対応する「生き抜く力」であり、自ら積極的に未来を創造していく意欲をもち行動する「生きる力」でもある。変化の激しい社会を乗り越え未来を力強く生きるために、子供たちには、自ら主体的に行動し、他者と協働しながら新しいものを生み出し、課題の解決や改善をしていく「生きる力」を今こそ育む必要がある。

また、我が国の教育の質を維持し続けるため、教職を目指す優秀な人材を確保することが必要であり、未来を担う子供たちを育てる教育という仕事の責務と魅力を、我々教員が適切なワークライフバランスにより目の前の子供たちにしっかりと向き合い、生き生きと働いていく姿を発信していくことも重要である。

そこで、第12期の研究では、第11期の研究で解明されたことを明らかにしながら、残された課題や新たな課題を踏まえた問題解決型の研究を継続し、さらに一歩進んで、新たな夢を描く想像力と新たな夢を実現する創造力(自ら積極的に未来を切り拓いていこうとする生きる力)を育み、子供たちにとっても、教員にとっても「魅力ある学校づくり」を具現化していくものとする。

#### (4) 研究のキーワード:「自立・協働・創造」

第3期教育振興基本計画の「Ⅲ. 2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項」には、『第2期教育振興基本計画(以下、「第2期計画」という。)で掲げた「自立」「協働」「創造」の3つの方向性を実現するための生涯学習社会の構築を目指すという理念を引き続き継承し、教育改革の取組を力強く進めていく必要がある』と示されている。

したがって、第12期の研究においても、研究主題「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」の下、キーワードとして「自立・協働・創造」を継承し、子供たち一人一人が多様な個性・能力を伸ばし【自立】、個人や社会の多様性を尊重しともに高め合いながら【協働】、新たな価値を創造していく【創造】ことのできる資質・能力の育成を目指すこととなる。

学校運営を推進する副校長・教頭としては、このような資質・能力を子供たちに確実に身に付けるため、リーダーシップの発揮や職務遂行にあたっての自覚、自らの資質・能力の研鑽等を含めて研究を進めるとともに、課題の解明に当たっては「自立・協働・創造」の3つのキーワードを意識した実践的な研究となるよう努める。

### 3 栃木県公立小中学校教頭会の研究について(R2~4)

#### 研究主題 「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」キーワード:「自立・協働・創造」

#### (1) 研究の基本目標

- 教育理念に基づく学校教育の実現  
特色ある学校づくりを展開し、生きる力を育む学校教育の実現をめざす。
- 副校長・教頭としての力量の向上  
広い視野に立って学校運営が行えるよう、学校教育に対する識見を深める。
- 学校の社会的役割の推進  
子供や保護者、地域の期待や信頼に応える魅力ある学校づくりを推進する。

## (2) 研究の基本方針

### ① 学校教育の課題の解決に努める。

副校長・教頭一人一人が自らの職能の向上に努め、学校教育の課題の解決に努める。

### ② 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追究する。

副校長・教頭としての【関与性】を重視し、「いつ」「だれに」「どのようにかわり」さらに「結果としてどうなったのか」「どう改善が図られたか」など、実践をとおして副校長・教頭の職務内容の追究に努める。併せて、研究成果を政策提言活動に生かしていくよう努める。

### ③ 研究体制の確立に努める。

教頭会会員がより連携を深め、組織的に研究を推進する【協働性】とともに、これまでの成果と課題を受け、継続的・発展的に研究を進められるよう【継続性】研究体制の確立に努める。

## (3) 研究の進め方

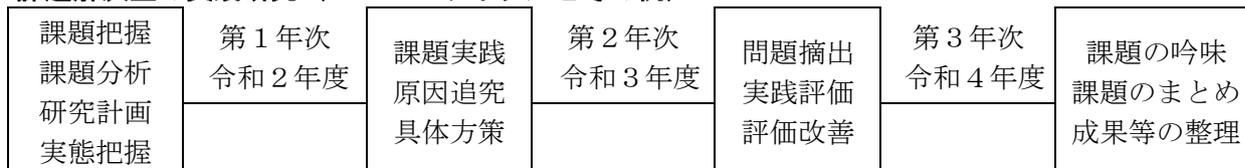
第11期までの研究の成果と課題をふまえ、全国統一研究主題のもとに設定された全国研究課題及び関東甲信越地区公立学校教頭会の研究課題の趣旨や内容の分析・検討を行う。

その中で、現在学校現場において早急に解決が迫られている問題点や課題は何か、未来を生きる力を育む魅力ある学校づくりを推進するためにはどのような研究に取り組みなければならないかなどを焦点化し、地区ごとの研究主題並びに研究副主題を設定する。

設定した課題を継続的・協働的に解明していく過程の中に、研究の仮説や研究内容、方法、組織内での役割分担等を織り込みながら、3か年を見通した計画の下、研究を推進していく。

研究の成果は、各学校で実践・評価し、学校教育の課題解決に役立つものとなるように研究年次ごとに整理し、研究大会の開催や研究集録にまとめるなどして継続研究が生かされるようにする。

### ※ 課題解決型の実践研究（PDCAサイクルとその例）



【関プロ大会】 群馬（紙面発表大会） 千葉（オンライン大会） 神奈川

【全国大会】 岡山（紙面発表大会） 佐賀（オンライン大会） 岩手

## (4) 全国研究課題に基づく地区別研究課題

### 〔 第12期（R2～4）地区別研究課題と発表予定 〕

| 全国研究課題        | 関東ブロック研究課題<br>[栃木県研究課題] |                   | 県大会<br>発表 | 関東ブロック発表   |            |             |
|---------------|-------------------------|-------------------|-----------|------------|------------|-------------|
|               |                         |                   |           | R2<br>(群馬) | R3<br>(千葉) | R4<br>(神奈川) |
| 教育課程に関する課題    | 1                       | 教育目標・教育理念に関する課題   | 南那須       |            |            |             |
|               | 1A                      | 教育課程に関する課題（小）     | 上都賀       |            |            |             |
|               | 1B                      | 教育課程に関する課題（中）     | 那須        |            |            |             |
| 子供の発達に関する課題   | 2A                      | 子供の発達に関する課題（小）    | 宇上小       |            |            |             |
|               | 2B                      | 子供の発達に関する課題（中）    | 足利        |            |            | 足利          |
| 教育環境整備に関する課題  | 3(1)                    | 施設・設備及び事務に関する課題   | 芳賀        |            | 芳賀         |             |
|               | 3(2)                    | 教育行財政に関する課題       | 下都賀       | 那須         |            |             |
|               | 3(3)                    | P T A及び地域社会に関する課題 | 佐野        |            |            |             |
| 組織・運営に関する課題   | 4A                      | 組織・運営に関する課題（小）    | 宇上小       |            |            |             |
|               | 4B                      | 組織・運営に関する課題（中）    | 宇河中       |            |            |             |
| 教職員の専門性に関する課題 | 5A                      | 教職員の専門性に関する課題（小）  | 下都賀       |            |            |             |
|               | 5B                      | 教職員の専門性に関する課題（中）  | 塩谷        |            |            |             |

- ※ 研究課題を基に設定する地区研究主題は3か年継続とし、研究副主題は単年度で考えてよい。
- ※ 県研究発表大会において、最終年度の令和4年度においては、割り当てられた学校種での発表とする。

## 4 本年度の研究

### (1) 研究推進における基本的な考え

本年度は、第12期研究の3年次にあたることから、研究主題にある「未来を生きる力を育む魅力ある学校づくり」に沿って、2年次の課題実践と原因追究・具体方策を踏まえ、問題摘出と実践評価・評価改善を行う。その際、第11期の研究主題に掲げられていた「豊かな人間性と創造性」は「生きる力」の中心的なものとして考えられるため、引き続き重視し、研究を発展させていくことを念頭に置く。また、「魅力ある学校づくり」の推進に関しては、働き方改革の着実な具現化を視野に入れ、研究を進めていく。

以上のことを踏まえ、継続的・協働的に研究に取り組み、具体的に学校で成果として生かせるようにして、副校長・教頭としての関与性をより明確にしていく。特に、各地区の研究主題の追究に当たっては、多くの学校での結果の集積を通して、様々な状況に対応できる研究となるように努めるとともに、より継続的・協働的なものにするために、例えば、前年度までの会員が中心となって研究を推進するなどの配慮をする。

#### ① 関与性を追究し、質を高めるための方策

- ・ 全国共通研究課題を基に、地区として解明すべき課題（問題点）を調査・分析し、課題解決のための関与性にかかわる独自の研究主題を設定し、副校長・教頭としてのあり方の究明を図る。
- ・ 関与性を多面的に評価し、その有効性を学校現場で実証しながらの研究とする。
- ・ 関与性のより具体的な内容・方法の明確化を図る。

#### ② 研究内容の継続性を図った研究を推進するための方策

- ・ 単年度ごとの現実的な研究に偏ることなく、今日的課題を踏まえ、将来の学校像を見据えた学校経営の立場からの研究とする。
- ・ 地区分担の研究課題から、3か年間を見通した研究計画を基に、これまでの研究の成果と課題をふまえ、系統的・発展的な研究副主題を年次ごとに設定し、研究を深めていくようにする。

#### ③ 研究を協働的に推進するための方策

- ・ 地区ごとに研究推進委員会等の組織づくりを工夫するなどして、研究の推進にあたる。特に、個人研究とならないよう、会員全員がより同僚性を発揮し、協働的に研究が推進できるようにする。
- ・ 県研究部と地区研究部との連携を一層密にし、会員一人一人が研究の内容を主体的に受け止め、積極的に研究に取り組めるようにする。

※上記の①～③については、3年次の研究実践の参考に用いてもらいたい。

### (2) 令和4年度栃木県公立小中学校教頭会結成60周年記念研究大会

- (ア) 期 日 令和4年11月18日(金)
- (イ) 場 所 栃木県教育会館大ホール(全体会)  
教育会館・コンサーレ・青少年センター(分科会)
- (ウ) 内 容 講演会・基調提案・提言発表・研究協議
- (エ) その他 分科会は、地区教頭会からの提言発表と小グループによる研究協議を取り入れた「参加型」の研修とする。